

政治・経済

【解答】

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
b	c	c	a	d
問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
a	c	b	d	c
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
d	d	a	c	a
問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
d	c	a	b	a
問 21	<p>(解答例)</p> <p>まず、<u>資源配分機能</u>がある。市場では最適配分がおこなわれない<u>公共財を提供するもの</u>で、市場機能の欠陥を補う機能がある。また、<u>所得再分配機能</u>では、貧富の格差を是正するもので、具体的には、所得によって税率が異なる<u>累進課税制度</u>などがある。さらに、<u>景気調整機能</u>では、財政支出を増減させることで経済調整をもたらす。<u>ビルト・イン・スタビライザー機能</u>や<u>フィスカル・ポリシー</u>などがこの機能を果たしている。</p> <p>(192 文字)</p>			

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。今年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問5題のうち、大問Ⅰから大問Ⅳが記号選択式問題（各5問ずつ）、大問Ⅴが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。説明論述式問題は、3年連続で経済分野から出題されているが、その他の問題は政治・経済両分野の幅広いテーマから出題されている。今年度の問題は、昨年度に比べ、正誤判定問題や正誤組み合わせ問題において、選択肢や記述の分量が1, 2行程度から3, 4行程度へと多くなっているものの、全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰは、日本国憲法の三大原則についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、国民主権についての正誤判定問題（1問）、平等原則についての正誤組み合わせ問題（1問）、精神的自由の内容と条文の正しい組み合わせを選択する問題（1問）、経済的自由についての正誤判定問題（1問）、社会権についての正誤判定問題（1問）となっている。なお、国民主権についての問題は3年連続、生存権についての問題は2年連続の出題である。また、今年度の問題では、日本国憲法の第何条に定められているかまで覚えておかないと正解を得ることができない小問が2問出題された（問3、問4）。

大問Ⅱは、地方自治についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、日本の地方自治についての正誤判定問題（1問）、地方公共団体の事務についての正誤判定問題（1問）、地方財政（歳入）についての正誤組み合わせ問題（1問）、「骨太の方針」を策定する組織についての語句選択問題（1問）、三位一体の改革についての正誤判定問題（1問）となっている。

大問Ⅲは、経済活動や物価の動きについての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、国民所得についての正誤判定問題（1問）、景気循環についての正誤判定問題（1問）、インフレについての正誤判定問題（2問）、景気を拡大する政策についての語句選択問題（1問）となっている。なお、国民所得と景気循環についての問題は昨年度も出題されている。

大問Ⅳは、貿易についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、自由貿易を主張したイギリスの経済学者についての語句選択問題（1問）、貿易についての正誤組み合わせ問題（1問）、日米貿易摩擦についての語句選択問題（1問）、1985年に成立した合意についての語句選択問題（1問）、国際収支についての正誤判定問題（1問）である。

大問Ⅰから大問Ⅳは、いずれも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことのないようにしてもらいたい。そのためには、まず、教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが必要である。その際、意味の分からない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、過去の問題では、具体的な数値を問う問題が出題されたこともあるので、最新版の資料集を手元に置いておくとよいだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、入試問題を収録した問題集に取り組んでもらいたい。なお、記号選択式の問題の中では、正誤判定問題や正誤組み合わせ問題で点差が開きがちなので、苦手な受験生は、旧センター試験・共通テストの過去問や共通テスト対策の問題集の中から同種の問題をピックアップして問題演習を行うとよいだろう。

大問Ⅴは、財政の機能について200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が開きがちであり、大問Ⅴを攻略できるかどうか合否の鍵を握っていると言える。本学の論述式問題は、教科書の掲載頻度が高い重要事項を説明するタイプと、時事的な話題について論じるタイプの2つに大別することができる。前者については、知識のインプットを終えた後に、『政治・経済 計算&論述特訓問題集』（河合出版）などを使用して、過去に出題された様々な論述問題にチャレンジしてもらいたい。後者については、日頃の学習の中で、新聞等で頻繁に取り上げられている問題や、資料集の巻頭特集や事例研究で扱われているテーマについて、現状や問題の背景、対策などを200字程度でまとめておくとよい。その上で、できれば学校の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうとよいだろう。

なお、政治・経済という科目は時事的な話題に最も敏感な科目であるので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとよいだろう。また、説明論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を勧める。

最後に、本学の問題は難問・奇問の類は全くないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。